

産業は同業種が集中するほど技術革新の伸び率が大きくなるとの解析結果

ハーフィンダール・ハーシュマン指数 (HHI) と全要素生産性 (TFP) の間に、見事な相関が認められる、との報告である。HHI と TFP の解説は下に引用したが、一言でいうと HHI はある業種における集中度で、寡占度 (シェア) と言い換えてもよいかもしれない。TFP は技術革新の度合いを示すもので、大きな技術革新があればこの数値は大きくなる。

建設業のように多くの会社が存在し、そのシェアを分け合っている業界においては、TFP は資本生産性と労働生産性から予想されるよりも低い値、マイナス値となっている。この業界に属する多くの企業は苦戦を続けている。一方、電気通信業や鉄道業では、この業界に属する企業数が少なく (シェアの度合いが大きく) TFP も大きい。

TFP は資本生産性と労働生産性の合計から予想される生産性からの乖離であるから、図は左下にある業種は利益を生み出しにくく、右上にある業種は利益を生み出しやすいことを示している。

この図は、東京商工リサーチのデータに基づいて作成されているので、日本国内の業界についての解析である。この話を全世界に広げればこの結果はどのようなになるのか? これを真剣に考えれば、日本が国際社会においてどのように闘っていけばよいかが見えてくる。

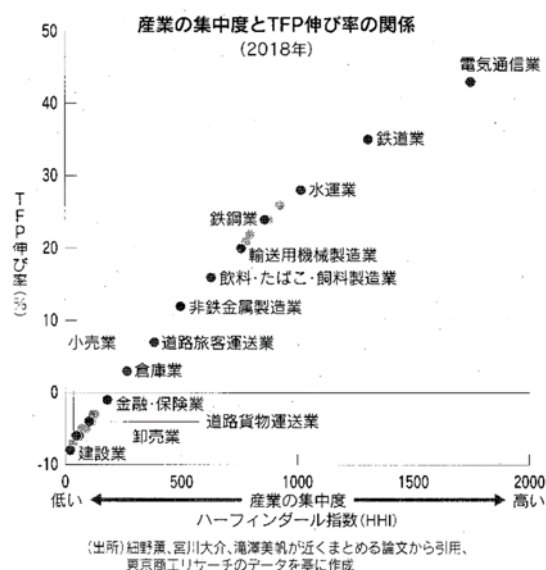
HHI 値の大きな業界を選ぶこと、すなわち将来有望な業界で、かつ、企業数の少ない業界を選ぶこと。そして、その業界において世界で高いシェアを占めること、業界で第1位、第2位を争うことである。中国や韓国の企業が国の後押しを受けて、最先端分野で世界的に高いシェアを占め、大きな利益を出している理由がここにある。

日本経済新聞

2020年(令和2年)4月22日(水曜日)

イノベーション 生み出すには ①

滝澤美帆 学習院大学教授



ハーフィンダール・ハーシュマン指数 (HHI) とは？

<https://www.elite-network.co.jp/dictionary/herfindahl.html>

ハーフィンダール・ハーシュマン指数 (HHI) とは、とある業界の市場における企業間の競争状態を測るもので、市場占有の度合いを表す。

業界内全企業の市場占有率 (%) を 2 乗して算出。数値の最大値は市場占有率 100% の 2 乗の 10,000 で、この数値に近づくほどその市場が独占されている状態であると判断される。

【例】

● 20 社それぞれの市場占有率が 5% の場合

$$5^2 \times 20 = 500$$

● 3 社の市場占有率が 75%、15%、10% の場合

$$75^2 + 15^2 + 10^2 = 5,950$$

※各企業のシェアの差が開いている、かつ、市場に参加している企業数が少ない程、数値が大きくなる。

※例外的に、地理的独占もしくは特定商品の独占などは数値に表れない。

2007 年 3 月に「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針 (企業結合指針)」が改正されたことにより、この指数が重視されるようになった。

生産性 (Wikipedia)

経済学で生産活動に対する生産要素 (労働・資本など) の寄与度、あるいは、資源から付加価値を産み出す際の効率の程度のことを指す。一定の資源からどれだけ多くの付加価値を産み出せるかという測定法と、一定の付加価値をどれだけ少ない資源で産み出せるかという測定法がある。「生産性=アウトプット/インプット」から、より少ないインプットからより多いアウトプットが得られるほど、より生産性が高いという関係にあることがわかる。

資本生産性は資本 (機械・貨物自動車等の設備) 1 単位に対してどれだけ価値が産めたかを指す。労働生産性は労働力 (単位時間当たりの労働投入) 1 単位に対してどれだけ価値を産めたかを指す。

全要素生産性 (TFP) は資本生産性と労働生産性の影響を除いた、生産の増加を表す。通常は緩やかな上昇基調であるが、技術革新の際に高い上昇を見せる。

イノベーションに関する日本経済新聞の記事

4 月 20 日 イノベーションを生み出すには① 小規模・若い企業が牽引

4 月 22 日 イノベーションを生み出すには② 人材投資・中小企業支援カギ

4 月 21 日 働き方 innovation さらに平等 ソニーの覚悟

新人から給与格差 完全実力主義、逆転も可能